

1 教育目標

(1) 学校の教育目標

人間尊重の精神を基盤として、感謝と畏敬の念をもち、伝統文化を継承し、世界的視野に立って新しい社会・文化を創造する人間の育成を目指す。

- ① 教養と品格を磨き、心身共に自らを鍛える生徒（鍛錬）
- ② 豊かな人間性や社会性を身に付け、自ら進んで社会に参画する生徒（参画）
- ③ 夢や希望の実現を目指し、自らの可能性を信じて挑戦する生徒（飛躍）

(2) 学校の教育目標を達成するための基本方針

- ・生徒一人ひとりが人権の意義・内容や重要性について理解するとともに、人権感覚を高め、自らを律し社会に信頼され、貢献できる人間となるよう全教育活動を通して人権教育を推進する。
- ・学校全体で授業のユニバーサルデザイン化を推進し、すべての生徒がわかる授業を工夫する。
- ・全教科でICT機器を活用した授業を展開する。各教科とも生徒の興味・関心を引き出し、確かな学力を身に付けることができるようにするために、教科の特性に応じた機器の活用法を探る。また、作成した教材及び活用したデータを蓄積・保存し、学校全体での共有を促進する。
- ・道徳教育推進教師を中心とした組織的な指導体制を整えた上で、全教育活動を通して道徳教育を進める。特別の教科道徳をはじめ、各教科や総合的な学習の時間、特別活動における体験的な学習を重視して取り組むことにより、規範意識や思いやりをもった心豊かな人間を育てる。
- ・学校図書館支援員の活用を通して、日々の読書活動を充実させ豊かな心情を養う。また、計画的に近隣の幼稚園児や小学生に読み聞かせを行い、言語・表現活動の充実を図る。
- ・東京都体力テストの結果の分析・考察結果から、基礎体力の向上と健康な体づくりに向けた体力向上推進計画を作成し、保健体育科授業や体育的行事の内容や方法に反映させる。
- ・学識経験者や関係諸機関等と連携しながら、性教育やがん教育、食育、飲酒・喫煙防止教育等の健康教育全体計画に基づき、心身の健康と安全に関する指導を体系的に実施することにより、健康づくりを推進する。
- ・東京2020オリンピック・パラリンピックに向け、年間指導計画に基づき、体験の中からスポーツや体力向上への関心を高め、運動に進んで関わる資質を育てる。障害者スポーツ体験として、「車いすバスケットボール体験」を設定し、選手との交流を通じて、共生社会の実現に向けた障害者理解教育を進める。また各教科や特別の教科道徳および総合的な学習の時間を通じて、国際社会や異文化への理解を深める。さらには、「新宿ものづくりマイスター体験講座」を実施して新宿に根づいた伝統文化について理解を深める。
- ・いじめ対策防止推進法、学校いじめ防止基本方針に基づき、いじめ防止対策委員会を中心に組織的な対応及び教育相談の機能の充実を図る。
- ・「hyper-QU」の結果を活用し、いじめや不登校の未然防止の取組の充実に努めるとともに、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、関係諸機関との連携を深め、いじめや長期欠席生徒への対応の充実を図る。
- ・特別な支援が必要な生徒には、特別支援学校や医療・福祉などの関係機関と連携を図るとともに、特別支援教室、特別支援巡回相談やスクールカウンセラー等からの専門的な助言や援助を活用し、障害の特性など個々の生徒の状況に応じた指導、支援の充実を図る。また、特別支援コーディネーターを中心に定期的に「特別支援推進委員会」を開催し、特別支援教育全体計画や個別の教育支援計画を活用しながら、指導内容や指導方法の工夫・改善を進め指導に当たる。

- ・海外から帰国した生徒や日本語指導を要する生徒の指導にあたっては、国際理解室等の関係機関と連携を図り、生徒一人ひとりの状況を踏まえ、日本語サポート指導等の体制を充実させる。
- ・地域の小学校との連携教育の充実を図るため、小・中連携日を年2回設け、学習指導や生活指導、道徳教育等の情報交換を密に行う。また、具体的なテーマを決めて児童・生徒理解や指導の在り方に関する情報交換や意見交換を進める中で、小・中学校の教員による課題の共有、及び共通実践を着実に進め、日々の教育活動の充実・発展を図る。